

和の光

宝塚市立西谷中学校



反省を活かすことの大切さ

社会科教諭・2年生担任 西本 舞央

私の中学時代について話そうと思います。

中学のときは、勉強が嫌いなわけではなかったのですが、テスト前にはそれなりに勉強している子どもでした。ただ、中学1年生の1学期のテストはまだ勉強法もわからず、散々なものでした。細かい点数はあまり覚えていませんが、唯一覚えているのが技術家庭科のテストで37点を取ったことです（100点満点です）。期末テストは微熱があるなか受けたので、多少点数が低くなったと思っているのですが、そんな事情は親には関係なかったようで、とても怒られました。そして中間テストも期末テストも悪かったので、もちろん1学期の通知表は散々なものでした。これは大学生になってから知ったのですが、通知表を渡した日の夜、家族会議が開かれ、「この子は勉強以外のところで伸ばすべきなのかな。」と話し合っていたようでした。ただ、2学期からは自分に合った勉強法を見つけることができ、成績は中学3年生まで右肩上がりとなりました。1・2年生の担任の先生は同じだったこともあり、2年生の三者懇談では担任の先生より「西本さんがこんなにできるとは思っていませんでした。」と言われたようです。私は全く覚えていないのですが、親は鮮明に覚えているようでした。そのような感じで中学3年生の部活引退後あたりから、本格的に受験勉強を始め、高校は無事第一志望に受けました。

「やるべきことをしっかりやって勉強したら結果は出るのだな。」と中学校3年間通して感じました。もちろん思っている結果が出ないときもありました。数学のテストで100点なのではと思うほどめちゃくちゃ自信があったときがありました。そして、数学の先生に「何点くらいですか!？」と意気揚々に聞くと、「思っているよりもよくないぞ。」と言われ、結果は70点でした。70点という数字をどう思うかは人それぞれですが、当時の私にとってはショックなことでした。答案用紙を見てみると凡ミスばかりで、テストを解き終わった後も特に見直しをしていなかったなと反省するところがありました。何事においてもですが、努力が実らなかつたら「なぜダメだったのか。」と反省をし、次回に生かすというのはとても大切なことだと思います。

みなさんは今、勉強や部活、習い事など様々なことに頑張っていると思います。「なんでこんなことやらなあかんの。」と思うときもあるかもしれませんが、そのときの頑張ったという経験や味わった達成感、悔しさといった気持ちは、大人になってからの原動力になっていると感じます。私自身、大人としてまだまだ未熟者で偉そうなことは言えませんが、みなさんにこの中学生という時期に色々なことに挑戦し、頑張ってもらいたいので言わせてもらいました。

私の拙い話でしたが、少しでも参考に、励ましになればと思います。

なぜ学校通信を書くのか

校長 筒井 啓介

■ある日の出来事

3年生のAくんから「校長先生、いったいつ学校通信を書いているのですか?」「あまりの枚数の多さにみんな驚いています。」と尋ねられました。私は、「学校通信は、だいたい自宅に帰って夜中か土日に書いています。」「理由は、みなさんが作文や感想をたくさん書いているようなので、それを皆に読んでもらい、仲間が喜んでいることや悩んでいることを知ってもらいたいからです。でも、校長の話は長いし、次は文字攻撃でごめんね。」と答えました。すると彼は「校長先生、大丈夫です。ちゃんと読んでいますから…」と答えてくれました。私は思わず嬉しくなり、「有難う。今日も1枚書くよ。」と約束しました。次の日、彼に合った時、「Aくん頑張って1枚書いたよ。」と声を掛けると「校長先生、もう読みました。」と答えてくれました。（思わず嬉しくなり、Aくんと握手しました。**みなさんは担任の先生や家族の方にほめられたら嬉しくなりますね。私も、みなさんからほめられると嬉しくなります。ほめることや認め合うことって一番の励みになりますね!!**）

私が、養護教諭の三宅先生にAくんにほめてもらった話をすると、「校長先生、3年生になっての決意ですが、たくさんの生徒が自分の書いた文書を探していましたよ。校長先生のコメントも喜んでいましたよ。写真も自分がどこに写っているか探しているようです。」と話してくれました。この話を聞いて、私は本当に嬉しく思いました。

■学校通信を書く理由

なぜ学校通信を書くのか、**1つ目の理由は**先述したように、多感な時期を生きる中学生は、喜びや悲しみなど感情の変化が大きく、時には悩むこともあります。そのようなとき、**「喜びを共有し、悲しみや悩みを仲間とともに乗り越えて欲しいと思うから」**です。みなさんの中学時代は一生の中でわずか3年間です。中学生生活を2回、3回とやり直すことはできません。（私たち教師は、長い教師生活でたくさんの中学生と関わりますが、みなさんと関われるのも1回限りです。だからこそ、**私を含め、全ての教職員がみなさん一人ひとりに真剣に向き合って、みなさんの「青春時代」を輝くものにしなければなりません。それこそが教育に関わる者の責務だと思います。**）

2つ目の理由は、「**みなさんの笑顔や頑張る姿を家族の皆さんや地域の方々に伝えたいから**」です。私は、普段の学校生活で、できる限りみなさん一人ひとりの活動の様子を写真に撮っています。その中には、みなさんの頑張る姿や笑顔がたくさん写っています。その様子をたくさんの方に知ってもらい、みなさんのことをほめてもらいたいからです。（みなさんはほめられると、嬉しくなってやる気がでますね!!）

3つ目の理由は「私自身が楽しいから」です。校長の私は、授業をすることがないので、直接みなさんと関わる機会他他の先生方に比べると、とても少ないです。だからこそ、私の考えていることをみなさんに伝えることができる唯一の手段が学校通信です。昨年の4月に西谷中に着任し、最初は月に1枚の発行でしたが、書くうちにだんだんと楽しくなってきました。そして、書いたものがみなさんに読んでもらえて嬉しくなったからです。私は、正直にいうと文章を書くことは得意ではありません。ですから、かなり時間をかけてこの学校通信を書いています。でも、しんどさは全く感じないのです。それは、**この学校通信を読んでいる西谷中生のみなさん、保護者のみなさん、地域の皆さん、西谷中の教職員の姿が目に見えるからです。そして、Aくんをはじめとする生徒のみなさんが褒めてくれたからです。**

このような思いで、学校通信を書いています。これからも、できる限りみなさんが書いてくれた作文や感想、たくさんの笑顔を届けることができるように頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひします。

■進路学習講演会を行います(お知らせ)

みなさんは、将来の夢や目標を見つけましたか？ 私は、生徒朝礼の時に「夢や目標を持って生きることの大切さ」について話すことがあります。夢や目標がある生徒は少なく、多くの生徒はまだ見つからない、といった様子です。でも、心配することはありません。普段の学校生活の中で授業を受けたり、行事や部活動に取り組んだりする中で、将来の夢や目標に繋がるきっかけはたくさんあります。要は、**「様々な経験を積むことが、夢や目標の発見に繋がる」のです。**そこで、私が長い間お世話になっているプロのミュージシャンに、「西谷中生の前で、夢を語りながら歌を聞かせて欲しい(一緒に歌って欲しい)」とお願いをしました。すると、「ぜひ私で良ければ、西谷中生に歌と話を披露させていただきませう」と快諾いただきました。

そのミュージシャンのお名前は BORO(ボロ)といいます。**BOROさんは中学校時代に吹奏楽部に所属し、トロンボーンを演奏しておられました。音楽好きで、将来絶対にプロになってやるという強い意志を持って、たくさんの苦労を重ねながら、夢を実現されました。**その BORO さんからお話や歌を聞かせていただくことで、**みなさんに夢や希望を見つけるきっかけづくりになればと願い、この講演会を企画しました。**なお、6月11日(火)に全学年まとめて事前学習を行います。

講演会の詳細は現在調整中ですが、保護者の皆さま・地域の皆さまもご参加いただくと幸いです。

校長 筒井啓介

【BOROさんの曲】

①ランナーの靴音

中学生の心にも響く歌詞です。ぜひ聞いてください。

<https://www.youtube.com/watch?v=-kCpwftt0Eo>



②大阪で生まれた女

BOROさんの代表曲です。みなさんのお父さん・お母さん世代の方はご存じの曲だと思います。

<https://www.youtube.com/watch?v=OSNyjdaRuUw>



講演会の概要

1. 日時 2024年7月3日(水)5・6時間目 13時30分から
2. 会場 宝塚市立西谷中学校 体育館
3. 講師 BORO(森本 尚幸)さん
4. テーマ (仮)西谷中生、BOROと一緒に夢を語ろう!!
5. 対象 西谷中学校生・保護者・地域のみなさま
6. 備考 参加を希望される方は、西谷中学校(担当;校長 筒井、教頭 ^{さわらぎ} 榎木)までお電話(0797-91-0312)で申込みください。

7. 講師紹介

ミュージシャン 兵庫県伊丹市生まれ。

1979年「都会千夜一夜」でデビュー、

同年「大阪で生まれた女」が大ヒット

以来、20枚以上のアルバムを発表。

100人以上のアーティストに楽曲を提供し、

プロデューサーや映画音楽の監督としても活躍。